

## 種雄候補牛「勝早桜5」絶好調です

北海道優良基幹種雄牛育成事業により、平成18年に畜試で生産した「勝早桜5」(HK-187、ジェネティクス北海道所有)という種雄候補牛がいます(「肉牛通信Beef Up! No.7」では、全きょうだい検定により「勝早桜5」を選抜した際の記事を掲載しています)。ようやく今年の夏から、現場後代検定肥育牛が出荷開始され、枝肉成績がおおむね出揃ってきましてので報告します。表1に、これまでに判明した「勝早桜5」の現場後代検定成績を示しました。上物率75%、BMSNo.平均6.7と、近年のジェネティクス北海道検定牛の中でも歴代トップの優秀な成績を残すことができました。特に去勢では、上物率およそ80%、BMSNo.平均7.0であり、大変優秀な成績となっています。枝肉重量に関しても、およそ480kgと全道平均をやや上回る成績です。

表1.「勝早桜5」の現場後代検定成績(残り2頭)

性	頭数	上物率 (%)	出荷月齢	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (cm <sup>2</sup> )	バラ厚 (cm)	皮下脂肪厚 (cm)	歩留基準値	BMS No.
去勢	24	79.2	28.1	479.7	60.7	8.2	2.3	74.7	7.0
めす	16	68.8	29.5	439.5	59.6	7.9	2.8	74.4	6.3
全体	40	75.0	28.7	463.6	60.3	8.1	2.5	74.6	6.7

10月6日に開催された平成24年ジェネティクス北海道枝肉共励会では、「勝早桜5」の枝肉が15頭出場し、そのうち二瓶義則氏が出品した「三夫」号(出場番号72)が後代検定牛の部において最優秀賞を獲りました。

今後、各関係機関と協力しながら「勝早桜5」の普及に尽力していきたいと考えています。



写真1 二瓶氏出品「三夫」号の枝肉(去勢、格付A5、枝重466kg、BMSNo.12)

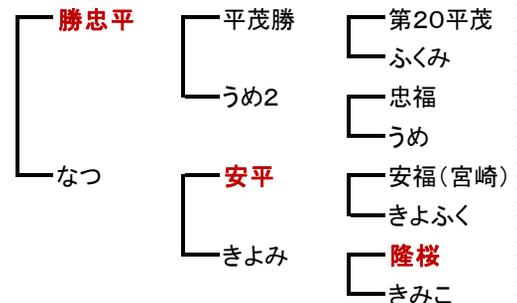
### 「勝早桜5」の紹介 平成18年6月23日生

北海道産、83.3点、遺伝病すべてフリー

畜試：生産&全きょうだい検定を担当

ジェネティクス北海道：現場後代検定&精液販売を担当

父は平茂勝の後継牛として名高い「勝忠平」、母は早来町(現.安平町)の西田進氏が生産した「なつ」(母方祖父「安平」、母方曾祖父「隆桜」)であり、気高系を主体とした田尻系とのハーフ系種雄牛です。



ジェネティクス北海道にて  
精液絶賛販売中！！

# 飼料米を活用した肥育技術

一昨年度の農業試験会議において、道内に普及させることが有効と認められた新しい技術を紹介します。

肉牛グループ 研究職員 齋藤早春

近年、利用が推進されている飼料米を黒毛和種肥育牛へ給与し、肥育成績に及ぼす影響について検討しました。飼料米は粉碎した『きたあおば』の玄米を使用しました。約9ヵ月齢の黒毛和種去勢牛を用いて、肥育用配合飼料を給与する区（対照区：5頭）と配合飼料の18%を玄米で代替する区（試験区：4頭）を設けて試験を行いました。粗飼料は、肥育開始から16ヵ月齢までは乾草、それ以降は稲わらを飽食給与しました。出荷は、29ヵ月齢で行いました。

表1. 増体および採食量

試験処理	頭数	体重(kg)		日増体量 (kg/日)	採食量(kg/日)	
		開始時	終了時		粗飼料	配合飼料
対照区	5	233.5	720.4	0.81	1.9	6.8
試験区	4	234.3	779.0	0.89	2.4	7.2

表2. 枝肉成績

	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (cm <sup>2</sup> )	バラ部厚 (cm)	皮下脂肪厚 (cm)	BMS No.	締まり・きめ等級
対照区	433.2 <sup>a</sup>	50.8 <sup>a</sup>	7.3	2.9	4.8	3.4
試験区	480.5 <sup>b</sup>	61.8 <sup>b</sup>	7.8	2.5	6.5	3.8

ab間に有意差あり(P<0.05)

試験終了時体重およびDG（日増体量）は試験区で大きく、採食量についても粗飼料、配合飼料ともに試験区で多く摂取していました（表1）。枝肉重量およびロース芯面積は、対照区に比べて試験区で有意に大きく、BMSNo.は試験区で高い値を示しました（表2）。肉質等級についても、対照区のA4が1頭、B4が2頭、A3およびA2が各1頭に対して、試験区ではA5が1頭、A4が1頭、A2が2頭と遜色ない成績でした。

これらのことから、飼料米を配合飼料へ添加しても採食量が低下することはない、十分な枝肉成績が得られることが明らかとなりました。

現在は、飼料米ととうもろこしサイレージを用いた肥育技術の開発を目指して試験を実施しています。試験成績がまとまりましたら、改めて紹介させていただきます。



写真1 飼料米(左)、粉碎した飼料米(右)



写真2 飼料米給与牛の枝肉(A5、510kg)  
(帯広畜産大学口田研究室提供)

# これで去勢は「楽チン」だ！！

遠藤研究員がネット上でとても便利な去勢法を見つけてきましたので紹介します。

肉牛グループ 研究職員 遠藤哲代

畜産試験場の肉牛グループでは、去勢は睾丸を引き出し、精管をしごいて引き抜く観血法で行ってききましたが、去勢後のストレスが大きく2～3日はエサの摂取量が落ち込むので飼養試験の成績にも影響してきます。そこで、牛にかかるストレスが少ない去勢法は何かないかと探していたところ、「北の（来たの？）獣医師（<http://mamesaku.livedoor.biz/>）」というブログで著者の豆作さんが「2玉同時捻転法」という画期的な方法を紹介されていました。この方法は写真1のような秘密道具を使って行います。手順は次のとおりです。



写真1 秘密道具「楽チン」

## ～「楽チン」を使った去勢の手順～



① ロープなどで保定する  
(畜試では鎮静剤を打ちます)



② 玉が二つあることを確認



③ 消毒液を染みこませたふきんなどで拭う



④ 陰囊の下部1/3くらいをナイフで切り取る



⑤ 切り取ると精巣がお目見えします



⑥ 精巣に付着した脂肪などを取り除く



⑦ 図のように精管の元に「楽チン」のフックをかける



⑧ 精巣を一度捻ってから、「楽チン」の取っ手を回していく



⑨ 10～20回転させると、精管の元からちぎれる

2玉同時捻転法は、陰囊の切除から精巣を摘出するまでにかかる時間が1頭あたり1分程度（従来の方法では5分）と短時間なので、牛にかかるストレスが軽減されます。従来法では、去勢後はしばらくグッタリしていましたが、2玉同時捻転法では鎮静剤がきれると歩きまわる牛が多くみられました。また、術者への負担、術中の危険のリスクが軽減できるというメリットもあり、いいことづくめです。

ちなみに、畜試ではこの秘密道具を「楽チン」と呼んでいます（取るのは玉なのにチンでいいのか？）。

# 和牛研修会がたくさん開催されました

8月から9月にかけて、肉牛グループ体測所を舞台に各種和牛研修会が開催されました。8月22日～24日に地方審査員事前研修会、8月27日に農業高校肉牛審査競技会、9月4日に釧路管内和牛指導者養成研修会、9月26日に新任者普及員研修と、審査牛も体測所もスタッフもフル稼働で研修会の運営をサポートしました。そのうち、地方審査員事前研修会（和牛の体型審査を担う「地方審査員」になるための試験に向けての練習会）の様子を写真でお伝えします。



写真1 研修会には、地方審査員の卵20～30名が受講しました



写真2 今回の講師は、全国和牛登録協会の管野氏



写真3 熱心に栄養度判定を行う受講生



写真4 牛を保定する北野指導主任 ばっちりきまっています



写真5 牛を保定する伊原主任 何日も調教してきたのでこの大人しさ



写真6 牛を保定する深川主任 今年度から肉牛G1に参戦

## おもしろスナップのコーナー

タイトル: 僕はブラウンスイス去勢牛だ。こら変な顔に撮るなよ。本当はもっと男前なんだぜ。

投稿: 及川 学



「畜試でブラウンスイスの飼養試験を行った際に撮影した写真です」

皆さまからのおもしろスナップをお待ちしています！採用された方には、「にこにこウッシーグッズ」を差し上げます